

坂下高校
賢・剛・優

さかし
味明日高校マルシェ開催!

11月3日(木)、初の「味明日高校マルシェ」を本校で開催しました。このマルシェは本校生徒の探究活動や地域連携学習の発表の場であると共に、地域に開かれた学校を目指し、50を越える地域の出店者の方々にも参加していただきました。当日は天候にも恵まれ、約1500人の方々に来場していただき盛大なマルシェとなりました。今回のマルシェで得たことを活かしながら、今後の地域連携活動に繋げていきたいと思っております。



坂下中学校
超升先輩

～自ら考え、目標に向かっ
て歩み続ける坂中生～

10月21日(金)、後期生徒総会を行いました。生徒会長や各委員会の委員長が、全校の前で自信をもって「こんな坂下中にしたい」という願いを伝えました。また、生徒会役員の話も聞いていた全校生徒も、提案について賛成意見や自分自身も協力したいこと、わからないことについては質問を行うなど活発な生徒総会となりました。また、校長先生からは、「①自分で考えて動くこと②継続は力なり」というキーワードが示されました。後期を通して、自分自身をどこまで高めていけるのか、どんな新たな自分に出会えるのか、自分への挑戦のスタートとなる集会でした。



坂下小学校
ダイヤモンド

運動会

秋のさわやかな空気の中、10月13日(木)に運動会を行いました。「仲間を信じて 全力勝負!」をスローガンに赤団も白団も、団長を中心に練習から精一杯の姿で取り組んでいました。

コロナ禍で、学年ごとに団席を分けるなど、まだまだ制限もありましたが、久しぶりに整列しての開・閉会式や応援合戦も行い、運動会だからこそできる経験がたくさんできた運動会となりました。

今年度は観覧者の人数制限を設けなかったことで、たくさんの家族の方にご観覧いただき、温かい拍手や言葉がけをいただくこともできました。



坂下保育園
かがやく瞳

秋のバス遠足

秋のバス遠足で中津川公園に出かけました。友達とバスに乗れることも嬉しくて、朝から興奮気味な子どもたちでした。川上保育園の子も一緒に行くことになり、到着してお互い紹介し終えると、早速遊具に向かいました。公園に行ったらあれをしたいこれをしたいと考えていたので、それぞれ思い思いの所へ。自然と川上保育園の子とも一緒に遊び、すぐに友達になれる子どもってすごいなと思いました。陸上競技場に入る許可をもらったので、みんなでコースを走ることに! 1周400mのトラックを走り終えるなり、「もう1回走りたい!」と、疲れを知らず何度も走っていました。バスに揺られて寝てしまう姿も可愛かったです。天気も良く楽しい1日になりました。



《 12月の主な行事 》

日曜日	行事名	時間	場所
8	いきいき元気教室	13:30~14:30	坂下公民館3階大会議室
21	行政・人権相談	13:30~15:00	坂下総合事務所第2庁舎
22	定例区長会	13:30~	坂下総合事務所第2庁舎
26	やさか地区農業委員会・農地相談	9:30~	坂下総合事務所
	小・中学校2学期終業式		
28	官公庁仕事納め		

慶弔のお知らせ

10月11日から11月10日の
坂下総合事務所への届出分

○ご誕生 (敬称略)			
かとう	こころ	(性別)	(保護者名)
加藤	情	女	(弘和) 矢淵
●ご逝去			
まつい	おむ	(89歳)	松源地
市岡	いくろう	(88歳)	松源地
おさだ	けんじ	(73歳)	島平一
はやかわ	いさお	(81歳)	上鐘一
糸魚川	たきこ	(94歳)	新田
原	あけみ	(81歳)	時鐘

編集・発行

中津川市 坂下総合事務所

電話	0573-75-2111
FAX	0573-75-4704
Mail	sakashita-office@city.nakatsugawa.lg.jp

人口と世帯数

(令和4年11月1日現在)

人口	4,150人(前月比 11人減)
	男2,012人、女2,138人
世帯数	1,668世帯(前月比 1世帯減)

ごみの収集日

燃えるごみ	毎週 月・木曜日
燃えないごみ	12月7日(水)
資源・硬質ごみ	12月14日(水)
大型ごみ	12月16日(金)
有害ごみ	12月の収集はありません

年末は12月29日(水)が **特別収集日**

2022年(令和4年)12月1日

さかし
た
タイムズ
ときめき・かがやき・つながる さかし



やさかふるさと花火大会・秋まつり
を開催しました

10月8日(土)19時~19時30分の30分間「やさかふるさと花火大会」を開催。約300発(スターメイン12基含む)の花火が周囲の山々に轟音を響かせ打ちあがりしました。

今年は天候も良く、多くの方から「綺麗だったよ」との声を頂きました。

また今回は道の駅「きりら坂下」駐車場において『やさかふるさと花火大会 in 秋まつり2022』と題してイベントを開催。ステージイベントを開催したほか、やさかマルシェとしてやさか地区の物産等販売、5台のキッチンカーによる飲食の提供、木製ジャンボ迷路や消防はしご車・高峰トラックの展示などを行い、多くの来場者で賑わいました。

最後になりましたが今回の花火大会に際して、地域の皆様、企業様より多大なる協賛金を頂き、誠にありがとうございました。

やさかふるさと花火大会実行委員会



2022文化祭開催

11月2日(水)から4日(金)まで「2022坂下文化祭」が行われました。今年坂下総合体育館の他に、第2会場として坂下総合事務所第2庁舎の3階「栞蔵」と「フォークジャンボリー記念館」も開館し、2つの会場合わせて600人以上の来場がありました。

第1会場では文化協会のサークルや子どもたちの作品、一般の方の様々な作品が並び、来場した人を楽しませました。通常予約のいる第2会場では期間内は自由に入館できることもあり、訪れた方はじっくりと坂下の歴史に思いを馳せた様子でした。



3年ぶりの芸能祭を開催!

10月16日(日)坂下公民館多目的ホールで、コロナ禍のため中止が続いていた芸能祭が、3年ぶりに開催されました。感染症対策のため、例年より時間を短く、観客の定員を設けての開催でした。

出演サークルは9組。2年間自由に集まれない時もありましたが苦しい中で練習を重ね、その成果を存分に発揮して、観客の大きな拍手に包まれました。



「和合ぶどう園」の運営を通じた親睦と地域活性化の取り組み

中之垣外地区では、平成14年にぶどう苗を植栽し、育成と管理を行うため、有志により「和合ぶどう愛好会」を立ち上げました。

和合ぶどう愛好会は、会員相互の親睦と、微力ながら地域活性化の一翼を担うことを目的とし、月1回程度の作業会と懇親会を実施してきました。最盛期には、年100kgを超す収穫があり、会員や子ども会、秋季クリーンキャンペーン参加者等に配布するとともに、一部は産直にも出荷し、その収益を肥料代、消毒代等に充当し、活動を続けてきました。

和合ぶどう愛好会発足20周年を迎えた今年、近くの土地にぶどう園を移設することになり、2月から苗木の植栽、ドーム型パイプ棚の構築、休憩所の設置等の移設作業に取り組んできました。立派な扁額もできた10月2日(日)に区長、自治会長、近隣のユニオン電装等々の来賓を招き「二代目和合ぶどう園」の開園式を行いました。当面は苗木の育成(整枝、施肥、消毒、除草)が主体となるが、3、4年後にはおいしいぶどうが収穫できるのを楽しみに会員一同作業に汗を流しています。

和合ぶどう愛好会 会員 松井康彦



▲ 二代目ぶどう園 開園式



▶ ぶどう苗木 育成状況

文化歴史ウォーキングを開催しました

11月5日(土)に、文化歴史ウォーキングを開催しました。坂下地区郷土文化財保存会の鎌田さん、早川さんを案内人に迎え、きりら坂下をスタート・ゴールとした約3.5kmのコースを26人の参加者が約2時間30分かけて歩きました。

今回は「弥栄橋と飛信街道」をテーマに、坂下の発展に欠かせなかった「弥栄橋」の歴史と果たした役割、荷物の流れが馬車・水運から鉄道、車と変化していく中での木曾川船渡から飛騨高山に至る「飛信街道」を中心とした坂下の発展、建設から90年近く経っても皆さんの通行に役立っている「坂下橋」について説明していただきました。参加者からは坂下に住んでいながらも知らない坂下の歴史を知ることができて良かったとの声をいただきました。

これで、令和4年度のやさか地区文化歴史ウォーキングは終了しました。また来年度も皆さまの興味を持っていただけるコースを用意いたします。ぜひご参加ください。



へボの巣(地蜂)コンテスト

坂下へボ愛好会(会長 楯 美津男)は、11月5日(土)にへボ(地蜂)コンテストを開催しました。

このコンテストは、山で採取したへボの巣を育て、大きさを競うものです。

今年は、山の巣の数が多くあったのと、成長期にあたる10月から11月の晴天続きのため比較的大きな巣となりました。会員の高齢化とともに脱会者が相次ぎ、今後の会運営にも大きな影響が出る中ででの大会でした。

結果は次のとおりです。

- 優勝 加藤 清巳 (乙坂) 4.35kg
- 準優勝 楯 美津男 (新田) 3.55kg
- 3位 楯 茂生 (東町) 3.40kg

▶ 巣箱から取り出されたへボの巣



新型コロナワクチン接種のお知らせ②

■これまで2年間、年末年始に新型コロナは流行しています
今年の年末までに、重症化リスクの高い高齢者などはもとより、若い方にもオミクロン株対応ワクチンによる接種を完了するようおすすめします。

■接種券が届かない方へ
接種券を紛失した方など接種券がない方は再発行手続きをしてください。



☞ 広報なかつがわ 12月号 15 ページ参照

■中津川市コロナワクチンコールセンター
☎0573-65-5100 (受付時間：平日9時～17時)

郷土文化財紹介

郷土文化財保存会会員

しらき ひさやす
白木 久裕

＜坂下の昔ばなし2 濃が池その1＞

坂下の字の1つに「濃が池」という窪地があります。原台地を椈の湖から乙姫橋に走る道路の中ほど(中原)でしょうか。この何十年かの間に濃が池の周辺は眺めがずいぶんと変わってきましたが、何とかして伝承して行けたらと思います。「濃(のう)」は誰も見たことのないとてつもなく大きな怪物のことです。この怪物が残した足跡を「濃が池」と伝えてきました。「ふるさと坂下」(鎌田宮雄著)によれば、湿地なので多くの植物が生え豊かな植生をあらわし、また子供たちの遊び場であったと記します。古者から聞き取られた濃についての話は、「数年日照りが続き坂下や山口は大干ばつに見まれ、木曾川も水が涸れようとしていた。とつぜん一面の黒雲が坂下、山口を覆い、それをかき分けてのうが天から下りてきた。のうは木曾川をまたいで右足を坂下の中原に左足を山口に下ろし、木曾川にしゃがみ込んで水を飲みほした。村人たちは驚き困った顔で見ているばかりだった。のうが天に帰り数日すると、困った村人の気持ちを通じたのか坂下や山口に恵みの雨がどっと降った。のうの足跡にも水がたまり、いつしか濃が池と呼ばれるようになった。」と記されます。

このような話に手を加えられたもので、「ノウのいたずら」(三戸律子、え・堀井昭美)と題する話が子供向けの「コボたち」(岐阜児童文学研究会編)の中に収められています。その出だしと、さし絵(右図)を紹介します。

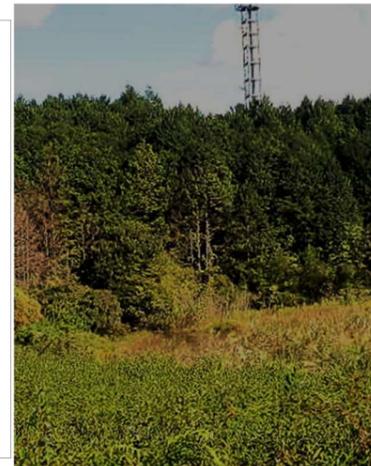
むかしむかし、うんとむかし。恵那坂下の山おくに、大きな大きなノウという怪物がすんでおった。
ある年のこと。雨がやっとうふらんで、木という木、草という草はみんなしおとしなだれてしまった。
川という川は、みんなひあがってしまって、ちよろちよろとしかながれんもんで、魚は白いはらを出して、いまにも死にそうであった。生きものという生きものは、水がほしくて、すこしでも水たまりがないもんかと、わいわいがやがや、あちらをさがし、こちらをさがしておった。
さすがのノウも、のどがかわいたもんで、どこぞに水はないかと、のっしのっしとあるきまわっておった。水たまりなぞちょぼりともみつからん。とうとう木曾川のあたりまでおりてきた。と、どうだ。さすがは木曾川。うつくしい水がとうとうとながれておるではないか。
「たすかった、こいでひといきつけるわい。」
ノウは、ほっとすると、左足をどっこいしょと、川のむこうぎしに、もうかたいぼうの右足は、うんとこしょと川のこちらがわにおいて、りょう手で木曾川をせきとめた。……………

残念ながら全文の紹介はできないので、上記の絵本を読まれることをお勧めします。このような雨乞い(あまごい)の話は全国にあります。坂下では木曾川川縁に雨乞い大岩があります。ここで川(水)の神様にお供えし雨が降るよう願ったのでしょう。

前月号の訂正について

郷土文化財保存会会員 白木 久裕 → 郷土文化財保存会会員 白木 久裕 訂正してお詫び申し上げます。

▶ 濃が池の風景(写真中央下あたり) 上は雨上がりに水たまりのできた



▲ さし絵1 水を求める動物ら



▶ さし絵2 ノウが雨をふらす

毎月第3日曜日は「家庭の日」 中津川市青少年健全育成推進市民会議
12月18日 ・うちのしごとは みんなで やろう